

電 力 情 報

NO. 55

平成26年12月24日

東 北 電 力 (株)

1 1 月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表-1 参照）

11月分の販売電力量は、58億9,300万kWh、対前年比98.0%の実績となりました。東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、節電への取り組みなどから、3カ月連続で前年実績を下回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

○特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）

電灯は、東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、節電への取り組みや前年に比べ検針期間が短かったことなどから、対前年比94.8%の実績となり、3カ月連続で前年実績を下回りました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比94.8%の実績となりました。

○特定規模需要（自由化対象のお客さま）

業務用電力は、需要回復の動きが続いているものの、節電への取り組みなどから、対前年比98.0%の実績となり、3カ月連続で前年実績を下回りました。

特定規模需要の合計では、対前年比99.7%の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

○大口電力

大口電力は、一部での自家発電稼働増加の影響があるものの、復興需要や一部業種で生産回復の動きが続いていることなどから、対前年比101.0%の実績となり、4カ月ぶりに前年実績を上回りました。

2. 供給力について（表－2参照）

11月の発受電電力量の合計は、67億6,400万kWh、対前年比97.9%の実績となり、4カ月連続で前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率は前年を15.1%下回る94.4%の渇水となったことから、発電量は前年を2,900万kWh下回る5億4,000万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を9億4,200万kWh下回る41億3,900万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を400万kWh上回る7,700万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では前年を4億5,900万kWh上回る22億7,400万kWhとなりました。

以上